

事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	バス利用促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③<利便性> 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	バス利用者	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
路線バスが快適に利用できるようになり、市民のバス利用者が増加しています。		路線バスの利用を促進するため、バス停での待合環境やバス走行環境の改善を図ります。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	バス利用促進検討会議の開催回数(平成26年度から)			単位	回
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標				3	
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	バス専用レーン化等導入検討進捗率(平成25年度まで)			単位	%
	説明・算定式	H24:バス専用レーン化等の導入検討 40%、H25:バス専用レーン等の社会実験の実施 20%、H26:導入計画の策定 20%、H27:専用レーン化の実施 20%				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	40	40	60		
	実績	10	40	40		
成果指標②	指標名	バスの定時制・速達性向上の施策策定進捗率(平成26年度から)			単位	%
	説明・算定式	H27年度を100%とした朝の通勤時間帯におけるバスの定時制・速達性向上の施策策定進捗率。H26:施策の検討、H27:施策の策定				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標				50	
	実績					
進捗状況	③:遅れている					
	遅れている理由	バス専用レーン化等の導入効果が見込めないことから、社会実験の実施に至らなかったため。				
平成25年度の主な取組と成果						
幹線バス主要3路線のうち、本厚木線の郊外部での速度低下の原因を調査、分析しました。現況の道路環境を走行する路線バスとしては著しい速度低下は見受けられず、また公共交通優先信号の導入は東西交通のさらなる渋滞を招くことが想定され、費用対効果においても優先度が低いことが確認できました。						
平成25年度の検証結果	C:十分に成果をあげることができなかった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平成20年に行ったアンケート結果によれば、バス停の待合い環境(40%)や運行の定時制・速達性(42%)等の向上が望まれています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	バス停の待合い環境や運行の定時制・速達性の向上は、バスの利用を促進し、平塚市総合交通計画でめざす交通体系の構築につながる有効な事業です。また、この事業は直接的に市民サービスの向上に効果的です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	中心市街地への自家用車の流入を抑制し、環境にやさしいまちづくりを進めるためには、公共交通の利便性向上を図る必要があります、その目的や内容に妥当性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国の補助の活用等、事業者、国、市それぞれの適正な役割分担と負担のもと効率よく進めていく事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 バス利用を促進するためには、運行の定時性・速達性の向上が望まれています。課題解決には中長期的な方策での検討が必要になります。また、バス停での待合環境の向上や、サイクル&バスライド等を取り入れた交通結節点の拡充を図ることも利用促進につながるものと考えます。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		バス優先レーン及び公共車両優先システムの導入検討	優先レーンの専用化社会実験の実施に向けた関係機関との協議	専用レーン化の社会実験の実施、バス走行環境整備事業の検討	バス走行環境整備事業計画の検討、公共交通優先信号等の検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—	
内訳	職員 (人)	0.27	0.40	0.45	0.80
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,189	3,206	3,577	6,251
フルコスト (A+B)		2,189	3,206	3,577	6,251

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成27年度の取組方針 バス利用の促進を図るために、バス停の待合い環境の向上などに対する支援に積極的に取り組みます。また、定時性・速達性の向上に向けて、ルートの変更等を伴う路線バスの再編や幹線バスの整備などについて、関係機関との連携を図り検討していきます。
課長コメント 総合交通計画の戦略プランに掲げている通り、バス利用の促進は優先的に進める交通施策であり、効果的な施策の推進を図る必要があります。